

基本構想・基本計画における管理運営計画の位置づけ

- ・基本構想・基本計画の構成
- ・基本構想・基本計画の構成例は以下のとおりです。管理運営計画については、構想・計画のなかで「事業計画」「組織計画」「収支計画」などを示すことになります。

【基本構想・基本計画の構成例】

■基本構想策定の前提

- ・国の文化政策
- ・市の文化政策

■現状調査および分析

- ・現状調査概要
- ・アンケート/ヒアリング調査概要
- ・調査結果分析

■新施設の目指すべき姿

- ・文化芸術施策内の位置づけ、賑わい創出など
- ・災害対策、ユニバーサルデザイン対応など

■施設概要

- ・施設構成
- ・ホール規模
- ・部門ごとの施設概要
- ・設備計画、動線計画、駐車場 など

■事業費（概算）・整備手法

- ・事業費（概算）
- ・整備手法

■管理運営計画

- ・事業計画
 - 事業方針
 - 事業の実施方針（自主事業、貸館事業）
- ・管理運営組織
 - 業務内容
 - 組織構成
 - 専門家登用
 - 市民参加
- ・収支計画
 - 基本方針、LCC（Life Cycle Cost）
- ・評価制度
 - 評価の基本方針

■事業スケジュール

管理運営計画の内容

- ・基本構想の構成
- ・基本構想の構成例は以下のとおりです。管理運営計画については、基本構想のなかで「事業計画」「組織計画」「収支計画」などを示すことになります。

■管理運営計画

記載内容について

- ・事業計画
 - 事業方針
 - 事業の実施方針（自主事業、貸館事業）

- ・どのような事業を実施するか
事業の種類、実施規模 などの考え方
- ・施設の貸出はどのような方針で行うか

- ・管理運営組織
 - 業務内容
 - 組織構成
 - 専門家登用
 - 市民参加

- ・管理運営主体（直営、指定管理）の考え方
- ・どのような役割の職員が必要か、人数など
- ・専門家の登用が必要か、どのような専門家か
- ・市民が参加する手法、サポート組織など

- ・収支計画
 - 基本方針、LCC（Life Cycle Cost）

- ・施設の収入、支出項目の整理
- ・収支計画の考え方
- ・中長期的な経費の試算（LCC）について

- ・評価制度
 - 評価の基本方針

- ・どのような方針で評価を行うか
- ・評価の流れや仕組みについて

計画の目標像

文化芸術でひとびとの心が健やかに育まれる
住みたいまち、住み続けたいまち 古河

基本的な方向性

古河で文化芸術を楽しむ 文化芸術に触れる・知る・味わう

文化芸術は人々の心に潤いを与え、生きる活力をもたらす、私達の生活に欠かすことのできないものです。市民が古河で暮らす日々の生活の中で文化芸術に触れ、心豊かに生きるための環境づくりに努めます。

古河で文化芸術から学ぶ 文化芸術を見つける・学ぶ・探求する

文化芸術を通して得る感動や気づきは、深く大きな学びへのモチベーションや学びを継続する喜びを生み出します。学びの入り口としての文化芸術が、まちのいたるところに展開されるよう、多角的な取り組みを展開します。

古河から文化芸術でつながる 文化芸術を紡ぐ・繋げる・広げる

文化芸術はさまざまな分野との接点を持ち、その先にある新たな領域へ誘います。文化芸術を通して多様な人々がつながり、心の障壁（バリア）を取り除いて互いを理解しあう地域社会を目指します。

基本的な方向性

古河の文化芸術を慈しむ 文化芸術を守る・伝える・語り継ぐ

地域の歴史や伝統文化を知ることは、地域への愛着につながります。まちの文化芸術への誇りを受け継ぎ、次世代に伝えることで、「住みたい・住み続けたいまち」であり続けることを目指します。

公会堂の目指す姿

「目指す姿：だれもが気軽に文化芸術を体感し、表現できる空間と、次世代への機会の創出」

基本的な役割

(1) 古河市の文化の「ド・マンナカ」

- ① いつでも文化芸術と出会い、触れられる機会づくり
新公会堂を訪れることで日常的に文化芸術に触れることができる、市民生活に文化芸術で彩りや潤いをもたらす文化芸術活動の「ド・マンナカ」を目指します。
- ② 本格的な舞台芸術の鑑賞・上演の場
良質な舞台芸術を鑑賞できるホールとして、また、市民自らが舞台に立つ本格的なホールとして、市民が様々な形で本格的な文化芸術に触れられる場をつくりま

(2) 賑わいが生まれ、活気があふれる「居場所」

- ① 賑わいにあふれた、市民の文化芸術活動拠点
活発に文化芸術に取り組む市民の活動拠点として活気に満ち、また、鑑賞に訪れる観客の熱気あふれる、文化芸術が生み出す賑わいに満ちた居場所文化活動拠点を
- ② 文化芸術活動を通じて育てる、新たな「居場所」
ホール機能だけではなく多彩な利用に対応した機能を持ち、新しい活動や取り組みを受け入れ、市民の文化芸術活動のきっかけづくりになる「居場所」をつくりま

基本的な役割

(3) 新たなコミュニティを育てる「よりどころ」

- ① 古河で暮らす市民の心地よさ・安心を生み出す場所
晴れ舞台も日常利用も、そして災害時の対応にいたるまで、市民の心の「よりどころ」となる施設を目指します。
- ② 文化芸術を核としたコミュニティの創出
文化芸術活動に取り組む人や鑑賞に訪れる市内外からの人の交流から、文化芸術を核としたテーマコミュニティが生まれ、育まれる環境をつくりま

(4) 次世代に向けた文化芸術活動の「育成拠点」

- ① 未来の古河を担う活動を育む場所
多様化する文化活動を受け入れ、その活動を担う幅広い世代が集まる場として、文化芸術活動への理解、そして参加機会の拡大につながる「育成拠点」を目指します。
- ② 文化芸術を通して「ちがい」を受け入れ認め合う
さまざまなバックグラウンドを持つ市民がともに文化芸術を体験することで、障害の有無、国籍・人種・性別などの「ちがい」を超え、認め合い、受け入れる機会づくりを目指します。

事業方針の検討

- ・上位計画である「古河市文化芸術振興基本計画」、そして検討してきた「施設コンセプト」をふまえ、事業方針を検討していきます。

事業方針（案）

1. 上質な文化芸術鑑賞機会の提供

→プロによる公演、学校と連携した文化芸術鑑賞教室の実施 など

2. 市民が行う文化芸術活動の推進

→文化芸術活動団体の活動発展支援、新規団体活動の機会づくり など

3. 文化芸術活動を通じた市民の交流促進

→文化芸術活動団体の合同活動発表事業、世代間交流事業の実施 など

4. 古河市の魅力を再発見する取り組み

→古河関東ド・マンナカ祭りとの連携、歴史をテーマにした事業制作 など

5. 多様な文化芸術活動を知り、体験する機会の拡大

→プロによるワークショップ開催、アウトリーチ事業の実施 など

管理運営組織の検討

- ・管理運営組織については今後検討する事業スキームを踏まえながら、「直営」「指定管理による運営」など複数の手法を比較し、専門家やアドバイザーの活用や、市民が積極的に参加できる組織体制を検討していきます。

専門家、アドバイザー雇用

専門性の高い業務（舞台技術、事業コーディネートなど）について、専門スタッフの雇用も考えられる。

運営主体

市が直接、施設の管理運営を行う「直営方式」
公の施設をノウハウのある民間事業者等が管理する「指定管理方式」
「直営方式＋一部業務委託」「民間企業への建設運営一括発注」など、複数手法が考えられる。

市民参加

運営主体だけではなく、市民が積極的に施設運営に参加することが重要になる。
「観客としての参加」、「練習活動での施設利用」、「ボランティア・サポーターとしての参加」、「施設のサポート組織として活動」など、さまざまな形で参加が考えられる。